

平成13年放流ヒラメ種苗の摂餌状況と肥満度の経時変化

福島県水産試験場栽培漁業部
平成13年度事業報告

1 部門名

水産業—栽培漁業—種苗放流
分類コード 19-05-18000000

2 担当者

富山 毅

3 要旨

本県では、平成8年からヒラメ栽培漁業が事業化され、毎年、全長100mmのヒラメ種苗100万尾が県内各地の海域に放流されている。このうち、双葉郡浪江町の請戸地先において、平成12年8月9日と平成13年7月23日にそれぞれ10万尾ずつ放流されたヒラメ種苗について、放流後の一定期間に経時的な追跡調査を実施し、放流種苗の摂餌状況を調べた。

(1) 平成12年調査結果

8月20日(放流後11日)～9月26日(放流後48日)の期間にヒラメ放流種苗を採集した。ヒラメの胃内容物を調べたところ、8月23日(放流後14日)までは主にアミ類を摂食していたが、8月24日(放流後15日)以降は魚類稚仔を摂食するようになっていた。食性が変化したこの時期のヒラメ種苗のサイズは、全長で111mmであった。

(2) 平成13年調査結果

7月27日(放流後4日)～9月27日(放流後66日)の期間にヒラメ放流種苗を採集した。ヒラメの胃内容物は、8月29日(放流後37日)までは主にアミ類であったが、8月30日(放流後38日)以降は魚類稚仔がみられるようになった。この年、食性の変化がみられたヒラメ種苗のサイズは、全長で約145mmであった。

この2ヶ年で採集したヒラメ放流種苗の日間成長量を推定したところ、平成12年は1.49mm/日、平成13年は1.07mm/日となった。餌料としては、アミ類よりも魚類の方が好成長をもたらすとされるが、この2ヶ年の調査結果は、このことを示している。

4 その他の資料等

なし